

2022年11月17日発行の日刊/建設通信新聞で商品開発の取り組みをご紹介いただきました。



3・3・3運動用介錯ロープ



ヘルハーネス

ヘルハーネスを開發した。「ヘルメットとフルハーネスを同じ場所にまとめて置くことができるので、現場事務所で邪魔にならない。省スペース化と環境美化を実現する」と自信を見せる。年明け以降の発売に向け、鋭意準備

を進めている。同社が現在取り扱っている商品の数は、建築系の副資材中心に500点ほど。このうち自社開発の商品が約250点で、売り上げも半分近く自社商品が占めるようになってきている。昨年には自社製品シリーズを「YUYPRO（ユイプロ）」に名称変更し、ブランド力の強化にも乗り出した。さらに商品開発のスピードを加速させ、ゆくゆくはメーカーとして自社製品のみを扱っていきたくと松本社長は前を向く。現在の売り上げは、グループ会社を含め約21億円。「今後5年をめどに、売り上げ50億円規模まで成長させたい」と意気込む。



目指すは現場ソリューションカンパニー

あらゆる現場の困りごとに応えます。堺市にある建築系副資材の開発・販売を手掛ける結一（ゆい）産業のモットーは、ユーザーから寄せられた声をすぐに反映させるスピーディーな商品開発



だ。同社を率いる松本良生社長は「現場のお困りごとが、私たちの商品開発の出発点。現場の声に、これからも寄り添っていきたく」と話す。目指すところは「現場ソリューションカンパニー」だ。

結一産業

松本社長によると、同社の商品開発のキーワードは「安全安心」「省力化」「SDGs」の三つ。このうち特に「安全安心」に関連する商品の企画力が光る。熱中症対策の一環で、建設現場でも近年設置が進むウォーターミスト。同社が2020年4月に発売した「後付けできるウォーターミスト」は名前のとおり、市販の工場扇などに「後付け」できるのが大きな特徴だ。もともと建設現場に休憩所用のテントやベンチを納入

していたところ、熱中症対策として、ウォーターミストの需要が大きいことに気付いた。発売後は現場だけでなく工場や幼稚園・保育所といった幅広い方面から需要を集め、同社のヒット商品の一つとなった。2017年3月に発売した「3色介錯ロープ」は、玉掛け作業に使用する介錯ロープの一部が赤、黄、緑の3色に塗り分けられている。厚生労働省推奨の「玉掛け作業の3・3・3運動」に対応した製品



松本社長

で、西日本を中心に売り上げを増やした。21年4月には改良版とし

て「3色介錯ロープ極」も発売するなど、「作って売ればなしにはしない。常に改善を意識している」と強調する。



後付けできるウォーターミスト

ことしから現場での着用が義務化されたフルハーネス型安全帯は高い安全性を誇る一方、重量があり、従来型の安全帯よりもかさばりやすいといった難点もある。そんな中「現場で置き場に困っている」との声聞きつけ、ヘルメットとフルハーネスを一つにまとめて掛けることのできるラックへ

「困りごと」が商品開発の出発点

出典 日刊建設通信新聞社



株式会社結一産業

